

事例: 思い出多いこの家で暮らし続けたい

神谷花子さん(82歳)は、夫と二人暮らし。

20歳から保育士としてA市の保育園に勤め(25歳から35歳は子育てで離職していたが、その後復職)、60歳で退職。その後はパート勤務で保育士を続けていたが、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症による座骨神経痛や腰痛が出現しはじめ、症状の悪化とともに、立ち仕事がつらくなり65歳のときに辞めている。

共働きの長女(新橋早紀さん)の家族を助けるため、手伝いにも出かけていたが、それも最近はつらなっている。特に痛みの強いときには、立ち上がることも歩くこともできない。1日何もせず、布団の上で座って過ごすことが多くなったという。

趣味は、友人との散歩(「ハイキング」と呼んでいる)だったが、最近では家に閉じこもりがちで、友人との交流が途絶えている。

手にしびれがあるようだと感じ出したことから、長女にも勧められ、介護保険の利用を考えた。要介護認定を申請し、結果は要介護2。主治医意見書は、かかりつけ医である長谷川内科クリニックで作成してもらった。

夫は、今も不定期だが大工の仕事をしている。長男夫婦、長女夫婦との関係はよいが、両者とも仕事が忙しいため、介助に来ることは難しく、介護保険サービスの利用を考えている。神谷さん自身は、自宅で夫との暮らしを続けたいと希望しており、趣味の菓子づくりや散歩に出かけたいという意欲もある。

・主な登場人物

○神谷花子さん 82歳

A市の保育園を60歳で退職後も、パート勤務で保育士の仕事を続けていたが、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症からくる座骨神経痛や腰痛のため、立ち仕事がつらくなり65歳のときに辞めている。62歳で高血圧症、76歳で糖尿病、神経障害の診断を受けている。最近では家に閉じこもりがちで、痛みがあり歩行も不安定なため、大好きだった散歩にも行くことができなくなっている。また、最近は、料理の味つけに自信をなくして調理を行っていない。同じ内容の話を繰り返すといったこともある。

○神谷良夫さん(夫) 82歳

隣町で工務店を営んでいる長男のところで、不定期だが大工の仕事をしている。職人気質で、仕事をするのが生きがい。楽しみは仕事の後のテレビでの野球観戦。妻の様子を気にしながらも、もっぱら長女に任せていた。家事は全くしたことがなかったが、最近は惣菜を買って帰ったり、ご飯を炊いたりなど協力する気持ちはある。

○長谷川博さん(長谷川内科クリニック院長 主治医) 58歳

神谷家のかかりつけとなっている内科医。先代の院長のときから付き合いがあり、息子である現院長とも懇意である。

○町田和子さん(友人) 82歳

女学校からの友人であり、神谷花子さんのハイキング仲間、お茶飲み友達でもある。最近、花子さんの腰や膝の痛みが悪化し、出歩かなくなったことをとても気にしている。近所に住んでいて、自分が手

助けできることがあれば協力したいと考えている。

○新橋早紀さん(長女) 50 歳

夫(49)と子ども2人(15歳の息子、14歳の娘)の4人で暮らす。夫は公務員で、本人は会社員。母親の料理の味つけや家に閉じこもりがちになっていることを心配し、介護保険の申請を勧めた。親子の関係は良好。

○智子さん(教え子) 40 歳

保育園の教え子。自分の子どもたちを連れて、菓子づくりを習いに来るなどの交流があるが、2月頃から訪ねてきていない。

○神谷光司さん(長男) 52 歳

隣町で妻(46)と子ども2人(20歳の息子、17歳の娘)、伯母(74)と暮らしている。工務店を経営していた伯父(10年前に死亡)の跡を継ぎ、夫婦で切り盛りしている。親子関係は良好だが、工務店の仕事が忙しく、休みがない毎日を送っている。

○上野祥子(居宅介護支援事業所C・介護支援専門員) 45 歳

①神谷花子さんの長女(新橋早紀さん)からの電話

居宅介護支援事業 C の介護支援専門員上野さんのところに、神谷花子さんの長女である新橋早紀さんが、介護保険について知りたいという電話をかけてきたところからはじまります。電話でのインテークを学ぶため、会話の内容をみてみましょう。

上野：はい、居宅介護支援事業所 C の上野でございます。

新橋：もしもし、私、新橋と申します。私の母のことなのですが、介護保険のことでしょうかがいたいことがありまして。

上野：はい、介護保険に関することですね。私は介護支援専門員の上野と申します。お電話でお話しいただく内容につきましては、個人情報として厳重に管理させていただきます。どのようなことでしょうか。

新橋：ありがとうございます。ええと、母は、本町の 3 丁目に、父と 2 人で暮らしているのですが、介護保険の認定通知というものが届きまして。同じ封筒に入っていたそちらの事業所名が載った一覧表をみて、そちらは本町の 3 丁目ですよ、近くていいかなと思ひまして。

上野：お母様が介護保険をご利用になりたいと考えていらっしゃるんですね。

新橋：ええ、そうなんです。母は、我慢強い性格なので、痛いとかつらいということを言わない人で。

上野：どういうご病気をおもちなのでしょう。

新橋：脊柱管狭窄症と座骨神経痛です。あと、高血圧症と糖尿病。家の中ではつかまり歩きしていたのですが、段差が多くて。なんだか、左側の手に蟻がはっているようだと言っていたんですが、伝い歩きするのも怖いって言って。

上野：それで介護保険を申請されたんですね。お母様の要介護度をご存知ですか。

新橋：要介護 2 です。

上野：お母様のご希望は何かございますか。

新橋：ずっとこの町で暮らしてきたので、住み慣れた家で暮らし続けたいと言っています。私は新町なので車で 10 分くらいなんですけど、共働きなので、土日しか様子をみにいけないんです。長女なので何とかしないといけないんですけど。

上野：お父様と二人暮らしなんですね。

新橋：はい。父は隣町で工務店をしている兄のところ、ときどき仕事をしてはいますが、介護が必要というほどじゃないんですけど、父は 77 歳で、歳相応にからだも弱っていて。仕事といっても現場で若い人にアドバイスしているくらいで。ずっと大工をしていましたから。

上野：お父様は家事をお手伝いすることはありますか。

新橋：家事なんかやったことないです。頑固者だし。鮭をいただいたときは、切ったりしますけど。ああ、余計なことばかり言っちゃって。一度、母と一緒にお話を聞きに行きたいんですけど、予約みたいなことが必要ですか。

上野：明日は土曜日ですが、新橋様のご都合はいかがですか。

新橋：午後ならいつでも大丈夫です。

上野：私がお母様のお宅にうかがって、一緒にお話を聞かせていただくことはできますか。

新橋：わざわざ来ていただけるの。

上野：はい、お母様から直接お話をうかがいたいと思います。ご自宅の様子も拝見させていただくと、こちらからご提案できることもありますし。

新橋：あの家で住み続けたいと言っているのだから、どんな家で暮らしているのかをみてもらえるのは助かります。では、何時くらいがいいですか。

上野：午後 2 時ではいかがですか。

新橋：ありがとうございます。

上野：では、お母様のお名前、生年月日、ご連絡先を教えてくださいませんか。

新橋：母の名前は神谷花子です。神社の神、山谷の谷、普通の花に子どもです。昭和 16 年 2 月 20 日生まれ、住所は、本町 3-2-1 電話は (123) 4567 です。郵便局の脇の道に入った突き当りの家です。

上野：新橋様のお名前と連絡先を教えてくださいませんか。

新橋：ああ、私の携帯は、090 (0000) 0123。結婚して新橋ですが、新橋は、新しいに、渡る橋、実家では「早紀」って呼ばれています。早紀は、早いに紀元前の紀です。

上野：新橋早紀様ですね。改めて、私は居宅介護支援事業所 C の介護支援専門員の上野と申します。明日は、一度、お電話を差し上げてからうかがいましょうか。

新橋：大丈夫です、直接来ていただいて。明日は早紀って呼んでいただいて結構ですから。

上野：ありがとうございます。明日は、車でおうかがいしてもよろしいでしょうか。

新橋：軽であれば、止められますよ。何か、用意するものはありますか。

上野：はい、お母様に届いている認定通知書、介護保険の被保険者証、印鑑をご用意いただけますでしょうか。

新橋：通知は日曜日に行ったときにみました。あります。

上野：ありがとうございます。では、明日 2 時におうかがいします。

新橋：ありがとう、お待ちしております。

② 訪問

土曜日の午後 1 時 40 分、神谷さん宅着。少し時間があるので、家の周りを歩いてみる。一周してきたところに長女の早紀さんが現れる。

【重要事項説明等まで】

早紀：こんにちは、上野さん？

上野：はい、上野です。こんにちは。

早紀：ありがとうございます。母と、それに父にも、今日はいなさいよってつかまえておいたので、3 人でお話をうかがわせてくださいね。

上野：はい。皆さんのご希望をうかがえたほうが、こちらとしてもありがたいです。

早紀：さあ、どうぞ。

上野：はい、おじゃまいたします(あいさつをし、靴をそろえて神谷さん宅に。上り框が 40cm、廊下から居室に 10cm の段差があった。玄関横の部屋にいる、神谷花子さん、夫の神谷良夫さんにあいさつをして腰かける。畳、座卓を囲んで座る)。

神谷：今日はわざわざありがとうございます。

神谷良夫：どうも、よろしく。

上野：ご連絡をいただきましてありがとうございます。(介護支援専門員証をテーブルの上において私は居宅介護支援事業所 C で介護支援専門員をしている上野と申します。

(いきなり本題に入るのではなく、その場の雰囲気 を和らげるため世間話などをする)。

お庭にあるのはハナミズキの樹ですよ。これからきれいな花が咲きますね。

神谷：毎年、きれいに咲きますよ。隣の家からのほうがよくみえるんじゃないかな。

上野：昨日、お電話で、こちらの家でずっと住んでいらしたいというお話をうかがって参りましたが、とてもいいお住まいですね。

神谷：そうなの。小さいけど大好きな家よ。

上野：お話をうかがわせていただく前に、介護保険制度に関する簡単なご説明と、私がしています介護支援専門員の業務内容をご説明いたします。

1.介護保険制度の行政パンフレット 2.重要事項説明書 3.契約書 4.その他の資料

【会話の導入】

上野：今、ご説明しましたように、神谷さんがこの家で暮らしていくために必要なさまざまな支援内容を計画書にしたものを「居宅サービス計画」といいますが、神谷さんの生活を再構築するためのおいをさせていただくことになります。

神谷：はい、よろしくをお願いします。

上野：お話の内容を、記録させていただきます。間違いのないようにさせていただきます。

神谷：はい、どうぞ。

上野：これからお聞かせいただくお話の内容は、私だけが考えるのではなく、それぞれの専門職からの意見をまとめて、居宅サービス計画の原案をつくります。さらに、サービス担当者会議といいますが専門職だけでなく皆さんにも中心となって参加していただき、私たちからの提案にご納得をしていただいたうえで、居宅サービス計画に署名していただくことになります。つまり、これからの生活を神谷さんに選んでいただくことになります。ですから、神谷さんがどういう生活をして

きたのか、これから、どういう生活をしていきたいのかということをお聞きすることになります。

一同：なるほど。

上野：どんなことが好きなのか、何をしたいのかは、お一人おひとり違いますから、総合的にお話をうかがわせていただくことになります。

神谷：ええ、何でも聞いてください（書類を手提げ袋にしまう）。

【生活歴・職歴】

上野：お生まれは。

神谷：1941（昭和16）年の2月20日です。ほら、消防署のところ、火の見やぐらがあるでしょ、あそこの近くで生まれました。

上野：ずっとこの町で暮らしていらっしゃるんですね。何かお仕事はなさっていましたか。

神谷：短大で保育士の資格を取って、5年間、A市の保育園で働いていました。24歳のときに、夫と結婚しまして。同級生だったんですよ。小学校のときの。25歳の2月に長男が生まれ、次の年の4月に長女が生まれました。学年は2つ違いますが、ほとんど年子みたいなものです。

上野：ご主人は、今もお仕事をなさっているんですね。

神谷：夫は、腕のいい大工で、今でも長男のところで時々、仕事をしています。棟梁みたいなことですかね。

良夫：みたって。

神谷：ふふ。1歳と0歳の子どもがいて、お父さんは毎日現場に出かけていましたから、子育てががむまで、専業主婦をしていました。

上野：それからずっと専業主婦だったのでしょうか。

神谷：いえ、子どもに手がかからなくなったので、35歳のときに、また、保育園で働くことになったんです。このあたりは、子どもが多かったんですよ。保育園の園長先生から誘われてね。定年まで、25年勤めて、退職後もパートとして5年かな、働きました。

（書類を手提げ袋から出そうとする。座卓の上にはのせない）。

上野：何か大切なものが入っているのですか？

神谷：無くすといけないと思うものをまとめています。年金手帳とか保険証とか通帳とかハンコとか…。それと思い出の写真なんか…。

上野：そうですか、見せていただけますか？楽しい思い出がたくさんあるんですね。

上野：じゃあ、ご近所にも卒園生の方がいっぱいいらっしゃいますね。

神谷：そうですね。智子さんや美穂さんは、自分の子どもを連れてくるわね。お菓子のつくり方を教えてなんて、優しい子たちだからね。

早紀：智子さんと美穂さんね。保育園中をバツただらけにした。でも、そんなにいらっしゃらないわよね。年に1、2回？

神谷：そうですね。

上野：では、保育園は、65歳まで働いたということですね。

神谷：ええ。でも、脊柱管狭窄症が持病でね、ずっと痛かったんだけど、65歳の頃に膝の関節も悪くなっちゃって、立っているのもつらいし、子どもを抱き上げるのもね。それで私も卒園しました。

上野：ほかにおからだのことは何か。

早紀：母は、お菓子が好きなので、自分でもつくっていて。そういうこともあって糖尿病で高血圧なんです。15年くらい薬を飲んでいて。それに、先月、介護保険の申請に必要な書類を書いていた

だくと、「手に蟻がいると言っている」って先生に言ったら、CTっていうんですか、頭のレントゲンを撮ってくれました。先生がおっしゃるには、自然に治っているようですが、脳梗塞を起こしたことがあるようだ。だから、左手がしびれた感じになっているのではないかって。

上野：手のしびれは、かなり強く感じていますか。

神谷：強いわけじゃないんですけど、なんかね。歩くときに、気になっちゃって。ふらついても、さっと手を出せないんじゃないかなって。つかんだりできないってわけじゃないんですけど。転んだり、骨折したりしやすいでしょ、私、膝も痛いし、介護保険を使おうって思ったのも、そういうこともあってね。

上野：左手で握手してみてもいいですか。

神谷：はい(すっと手を差し出す)。

上野：(握手をしてみる。力加減を確かめる)

早紀：長女なので、できるだけのこととは思っているんですけど。共働きで、私が住んでいるのは新町なので、車で10分くらいなんですけど、職場までは1時間くらいかかるから、土日しか顔を出せないんですよ。

【家族構成】

上野：家族構成をお聞かせください。

早紀：じゃあ私が。父は良夫、77歳、母と二人暮らしです。父にはお兄さんがいましたが、10年前に亡くなって。伯母は74歳で元気です。母の両親は、ずいぶん前に亡くなっています。

神谷：ええ。

早紀：両親の子どもは、兄と私の2人。兄の光司が52歳、奥さんの光子が46歳20歳の息子、17歳の娘がいます。兄夫婦は、父のお兄さんがやっていた工務店を継いで、隣町で暮らしています。

私は50歳で、夫は49歳、15歳の息子、14歳の娘がいます。私は会計事務所で働いていて、夫は公務員です。

神谷：戦争でね、私には2歳上の兄と一つ下の妹がいたんですよ、亡くなってしまって、両親も私が高校を卒業する頃に亡くなっています。

上野：では、お一人で頑張っているじゃないですか。

神谷：大変だったけど。働きながら短大を出ましたね。両親の家は、今はもうありませんけど、ほら、消防署の先の空き地のところ。同じ町内にあったの。

上野：はい(先ほども出た話だが、話を聞く)。

神谷：子供たちは、夫の母親に可愛がってもらって。何かあると、必ず来てくれましたから。覚えてる？

早紀：うーん。あんまり。でも計算を褒められたことは覚えているわ。

神谷：おこづかいの計算速かったものね。

早紀：いいから。上野さんが困っているでしょ。

【介護力】

上野：早紀様は、土日にはいらっしゃるって、お兄さんたちはどうなんですか。

神谷：息子のお嫁さんもいい人で、早紀とも仲がいいんですけど、仕事が忙しいんですよ。夫にも来てもらいたいっていうくらいですもの。仕事が忙しいのはいいことですから。

上野：ご主人は、家事のお手伝いをなさるんですか。

良夫：ご飯くらは炊くことはあるけど、ほとんど何も。

早紀：けっこう頑固な父でも、ご飯を炊くようになりました。でも、父もちょっとからだが弱くなっているし、基本的には、おかずを買って帰ってくるくらいね。

良夫：糖尿病の食事なんかつくれねえし。

神谷：お惣菜屋さんが近くにあるから。

【健康状態】

上野：健康状態について改めてお聞かせください。いつもかかっている先生はどなたですか。

神谷：長谷川内科クリニックの若先生です。

上野：介護保険の申請に必要な書類を書いちゃったのも長谷川先生ですね。昨日早紀様からうかがったのですが・・・

早紀：早紀様って、早紀さんでいいですよ。

上野：はい、では早紀さんからは、糖尿病で高血圧症、脊柱管狭窄症、座骨神経痛ということでしょうかっています。

神谷：病気はそのとおりです。長谷川先生のところには月 2 回受診しているんです。近いんだけどタクシーに乗って。整形外科の先生のところにも月 1 回通っています。整形外科の先生のところは、少し遠いから、お父さんに一緒に行ってもらいますよ。

神谷：(手提げ袋から、用紙を取り出して) これ、薬の名前が書いてあるんですけど。

上野：はい、拝見します。お薬は降圧剤と鎮痛剤の 2 種類ですね。

早紀：ときどき飲み忘れていたみたいなので、土日に来たときに、私が確認はしてるんですけど。

上野：最近、身長と体重を測ったことがおありですか。

神谷：先月、整形外科の先生のところでも測ってもらったの。身長は 155cm、体重は 42kg だったけど、最近のはどうかな。

上野：お食事は、普通に召し上がっていらっしゃいますか。

神谷：そうね、近所のお惣菜屋さんのものは、何を食べてもおいしいのだけど、食べる量は減ってるかも。あと、甘いものを少し食べて、あんまり食べちゃいけないんですけど、楽しみなんです。手はね、しびれた感じはするけど、お茶碗持ったりするには関係ないから。トイレが近くなるし、水分はあまり摂らないようにしています。

上野：そうですね。身体には一定量の水分は必要ですから、その分の水分は摂られたほうがいいでしょうね(提案も盛り込みながら話す)。

早紀：一度間に合わなかったことがあるみたいで。

神谷：そんなこと言わなくても。

早紀：ごめん。でも、ほら、そこと(廊下から居室までの段差 10cm)トイレの入り口(段差 5cm)のところも段差があって、ちょっと危ないんですよ。

上野：ちょっとありますね。

神谷：カラーボックスなんかを伝えていくと、ふらふらしないでもいいんですけど、ほら、トイレ行くときは、左手で触っていくから、なんかね。朝と夜は、お父さんに頼んでトイレまで行ってるけど。昼間がね。

上野：お通じは。

神谷：4 日に 1 回くらいです。

上野：それ以上なくて困ることはありませんか。

神谷：それはありません。

上野：入浴はどうなさっていますか。

神谷：お風呂場も段差があってね、1人では。顔なんかは、朝ごはんのときに台所で洗うんですけど、歯みがきも一緒に。前歯の上が4本、部分入れ歯なんだけど、それもチャチャッと洗って。でも、お風呂はね。

早紀：父にはちょっと無理みたいなので、土曜日か日曜日に私が介助して入れています。お風呂に入るのに、高いついていうか、深いついていうか、またいで入るとき、出るときが難しいんですよ。

神谷：外出しないから、そんなに汚れないし。

早紀：でも、週に1回だから。まだ、暑くなってないからいいっていえばいいけど。

神谷：お父さんはお風呂が好きじゃないから、いつもシャワーね。仕事から帰ると。

上野：服の着替えなどはどうですか。

神谷：ゆっくりなら問題ないので、自分でしていますが、からだが痛いついていうか硬くなってるので、靴下はお父さんがチョチョッと履かせてくれたり。

早紀：ふーん、そうなんだ。

良夫：届かないからな。

上野：お惣菜をご主人が買って帰っていらっしゃるということでしたが、お料理はなさっていますか。

神谷：2か月前くらいまで、料理はしていたんですけど、お父さんが、味が濃いついていうか薄いついていうか、毎回なるとかいうんです。うるさいなつていうんじゃないかと、なんだか自信なくなっちゃって。最近はしていませんね。食は基本だと思うのだけれど・・・。

上野：最近気になっていることはありますか？

神谷：さっきの大事な袋、どこかしら、なんて出したり入れたりしています。

上野：心配になるのですよね。気になって眠れなくなることなんかありますか？

神谷：気になって確認することはあるの。でも眠れなくなるといふところまではありません。

上野：今は他にどんなことをしていらっしゃいますか？

早紀：掃除とか洗濯は私が1週間分まとめて。父の作業着は、兄のところで洗ってくれるし。物干し場が2階なんですけど、階段が急で、持って上がれないでしょ母じゃ。

上野：そうですね。それでは、文字が読みにくいとか、人のお話が聞こえにくいということは。

神谷：それは問題ないですね。

【1日のスケジュール】

上野：神谷さんは、毎朝、何時くらいに起きていますか。

神谷：そうですね。お父さんに仕事があるときは、6時半くらいには目を覚ましていますね。ないときでも同じくらいか。トイレについて行ってもらって、着替えている間に、お父さんがご飯よそってかれて、靴下履かせてもらって、台所で7時半くらいまでの間にご飯食べて。仕事のない日は、8時か8時半くらいにご飯を食べます。

上野：日中は何をなさっていますか。

神谷：朝使った食器を洗って、食器っていってもご飯茶碗が二つとお箸が二膳でしょ。おかずは買ってきたパックのまま食べて、捨てちゃうから。ドラマなんかみてるとお昼くらい。お昼っていっても、お腹すかないし、少しお菓子を食べて。新聞はつまらないことばかり書いてあるから、広告を眺めて、みんなごみ箱になるように折ったりして。新聞はね、料理の記事だけはよく読んでるわ。ゆ

っくりトイレに行って帰ってきてまた読んだりすると、何回も同じところ読んでるのかしら。終わらないのよ。あとは、ダンスの中を片づけたり。お父さんが、早いときは5時くらい、遅いときでも7時くらいには帰ってくるから、ご飯食べて、薬飲んで、9時くらいは、トイレについて行ってもらって、テレビをみながら寝てます。10時くらいですね。夜中にトイレに起きますが、夫が起きるのと同じ調子なので、ついて行ってもらうこともあります。

【意向】

上野：神谷さんは、こういうふうに住らしていきたいというご希望はおありですか。

神谷：そうですね。お父さんとずっとこの家で暮らしていきたいな。この家好きなのよ。私は、小さいときにきょうだいを亡くし、両親も亡くなっているでしょう。お父さんと結婚して、子どもが生まれて、家族ができて本当にうれしかった。保育園の子どもたちも、自分の家族のように思って接していましたけど。そうそう、早紀が高熱を出したときに、お父さんが病院まで駆けていって、夜中に診療所のドアを壊しちゃって、先生呼んで来てくれて。次の日に修理にうかがって謝って。頑固な人だけど、家族のことをちゃんと考えてくれていて。

早紀：長谷川クリニックの今の先生のお父さん先生ね。建物は新しくなっているけど。母の介護保険の書類を書いてくれた先生のお父さん。

上野：楽しい思いがいっぱい詰まっているんですね。

神谷：そうですね。何したいかっていうと、またお菓子を作れるようになりたいな。あと、散歩ね。

上野：お散歩ですか。

神谷：ええ、お菓子とかおにぎりもって、バラのきれいな公園あるじゃない。それと、公園とは反対方向だけど、三つ並んだひょうたん池のところとかね。どの季節もいいところよ。ずっと会ってないけど、町田さんや藤沢さんとあちこちハイキングに行きたいな。私たちはハイキングって言っているの。時々、人数増えるけど。

早紀：先日、町田さんにお会いしたの。なんか体調がよくないって聞いているから、お家に行っていないけど、お母さんのご様子はって、心配してくれてたわよ。

神谷：ずっと閉じこもっていたからね。でも、今のからだじゃ無理だね。

上野：ご主人は、ご希望はありますか。

良夫：これの言うようにしてほしいと思います。私は、いろいろなことはできないけど。痛がっているのを見ているのは、ちょっとつらいです。家にばかりいるのも何とかしたいですけど。私のからだもそんなに強くなっているしね。

早紀：私たちもできるだけのことはしたいのですが、介護保険のサービスを使えると、母も父も生活しやすくなると思うんです。なんでも介護保でって思っているわけじゃないのですが、両親の思っているようにできればって。

上野：（介護保険について説明する）そうですね、介護保険で何でもできるということではありません。介護保険では、ご本人やご家族の希望を踏まえつつ、自立した生活に向けて専門職の意見も取り入れて、自立に向けた手段としてサービスを利用していくことになります。

神谷：まずサービスを選ぶわけではないんですね。

上野：はい。生活全般にわたって解決すべき課題を明らかにしたうえで、その解決に役立つようなサービスを選んでいきます。どういう暮らしをなさりたいのかということ、神谷さんもご主人も早紀さんも一緒に考えて、納得したうえで使いはじめることになります。

【利用者負担・経済】

神谷：毎月の保険料のほかにも、お金がかかるんでしょ。

上野：介護保険を利用するには、自己負担というものがあります。一般的には、利用したサービスの費用の1割を負担するしくみです。所得によっては、2割または3割の負担となる方もいらっしゃいます。後ほど、「介護保険利用負担割合証」を拝見させていただきますか。

神谷：（手提げ袋の中から介護保険被保険者証と介保険利用負担割合証を取り出そうとする）

早紀：上野さんに相談するにも費用が必要なんですよ。

上野：いいえ、私がお話をうかがったり、居宅サービス計画をつくったりすることに関しての皆さんの負担分はないんですよ。

神谷：そうなんですか。

上野：年金などについて教えていただけますか。

神谷：保育園で働いていたので、厚生年金なんですけど、月に15万円くらいかしら。少んですけど、貯金もあります。

早紀：私も兄も、できるだけことはしようと思っていますから。

上野：医療保険は、77歳ですから後期高齢者医療保険ですね。

【生活全般の解決すべき課題を認識していただくための働きかけ】

上野：皆さんのお話をうかがって、いくつか確認させていただきたいと思います。

神谷：はい。

上野：神谷さんは、これからも大好きなご自宅で、ご主人と一緒に暮らしていきたいとお考えですね。

神谷：はい。

上野：そのために、まずは食事をしっかり食べたり、運動する機会を持ったりして体力をつけていくことが必要だと思います。

神谷：ええ。

上野：そして何よりも、神谷さんが今まで持ってこられた自信を回復して、前向きな気持ちになることが大切だと思います。いかがですか。

神谷：そうね。その通りかもしれないね。

上野：今は立っていらっしゃるのも、おつらいんですよ。

神谷：そう、お菓子をつくるにも座ったままじゃできないし、立ってるっていても、すぐにつらくなるからね。

上野：介護の状態が重くなったり、ほかの病気になったりしないように、ふだんの体調の管理は必要だと思います。またご自宅での生活をスムーズにできるようにするためにもリハビリテーションは有効だと思います。

上野：それと、お住まいの段差が少なくなれば、室内の移動が安全になりますね。段差の解消や手すりの設置など、住宅改修も有効だと思います。

早紀：そうね、作業場も父の仕事には向いているけど、そうね。

上野：立ち上がりや起き上がりが大変なようであれば、福祉用具などを利用して環境を整えることもできます。

神谷：お父さんに起こしてもらうときに、2人とも転びそうになったこともあったわ。

上野：この後、ご自宅の中を拝見しまして、一緒に検討したいと思います。

体力をつけて、自信がついた先の目標になりますが、お友達の町田さんとハイキングにいけるような、この町のなかに戻っていけるような方法を考えさせていただきたいと思います。

神谷：できますか。

上野：ええ。そのためにも、できるだけ早く、神谷さんの生活を再構築するためのプラン、介護保険では居宅サービス計画といいますが、その原案をつくらせていただきます。私がうかがった内容を踏まえて、それぞれの専門職の意見も反映させます。そのうえで、サービス担当者会議といいますが、神谷さんご家族にも参加していただく打ち合わせの場をつくり、サービスを提供することになる専門職と一緒に、居宅サービス計画についてお話をさせていただきます。

早紀：なんかすごいことですね。

上野：神谷さんご家族に、サービスの中味を納得していただくことはもちろんですが、ご提供するサービスが何を目的としたものかについて、それぞれの担当者と共有することが大切なんです。神谷さんがご自分でできることまでサービスとして提供してしまったりすると、かえってできないことを増やしてしまうことになります。

神谷：私の生活だから、私が選べるんですね。

上野：はい、そうです。長谷川クリニックの長谷川先生にも会議に出ていただきたいのですが。

早紀：私からもお願いしておきますが、多分協力して下さると思いますよ。父が、玄関壊してくれたおかげですね。

上野：会議のメンバーについては居宅サービス計画の原案についてお話しさせていただくときに改めてお伝えします。会議の日程は土曜日のほうがご都合いいですか。

早紀：そうですね。私もお話をうかがいたいです。

上野：では、神谷さんの居宅サービス計画については、このような方向性で作成させていただきます。

神谷：よろしくをお願いします。

上野：たくさんのお話がうかがえました。ありがとうございます。ほかに何か思い出したというようなことがございましたら、次回お話しいただくか、紙に書いておいていただけると、と思います。

早紀：ありがとうございます、何かあれば書き留めておきますね。

【住環境の確認】

*住環境の確認については、改めて訪問する約束をしたが、夫の良夫さんに家の中を簡単に案内してもらった。